

第 1 回 桐生市総合戦略推進委員会 議事録

1. 日 時 平成 27 年 8 月 25 日（火）午後 6 時 30 分～午後 9 時 5 分まで

2. 場 所 桐生市保健福祉会館 3 階 多目的ホール

3. 出席者

【委員】 委 員 長：	桐生市総合計画審議会会長職経験者	宝田 恭之
副委員長：	桐生商工会議所 会頭	山口 正夫
委 員：	桐生商店連盟協同組合 副理事長	茂木 理亨
	新田みどり農業協同組合 副組合長	藤生 英喜
	桐生広域森林組合 総括課長	栗原 和人
	桐生織物協同組合 共販部係長	品川 悦子
	群馬県桐生みどり振興局 局長	飯島 泉
	群馬大学理工学部 教授	板橋 英之
	桐生商業高等学校 教諭 進路指導主事	北風 久子
	桐生信用金庫 常務理事	横倉 浩治
	足利銀行 桐生支店長（代理 桐生市役所出張所長）	菅沼 正孝
	群馬銀行 桐生支店長	横山 勝則
	桐生公共職業安定所 所長	橋本 真実
	桐生タイムス 事業推進室長	小澤 義明
	桐生市区長連絡協議会 第 3 区長	茂木 新司
	桐生市社会福祉協議会 常務理事	高松 富雄
	きりゅう市民活動推進ネットワーク 代表	近藤 圭子
	NPO 法人キッズバレイ 代表理事	星野 麻実
	桐生市 P T A 連絡協議会 副会長	長 由紀子
	桐生市医師会 理事	太田 裕穂
	桐生青年会議所 理事長	朝倉 康行
	桐生市婦人団体連絡協議会 会員	田中 洋子
	桐生市環境審議会 会長	赤岩 英夫
	2015 年の公共交通をつくる会 会長	佐羽 宏之

【桐生市】	桐生市長	亀山 豊文
（事務局）	桐生市総合政策部長	鳥井 英雄
	桐生市総合政策部企画課長	和佐田 直樹
	桐生市総合政策部人口対策室室長	六本木 和敏
	桐生市総合政策部人口対策室主任	竹ヶ原 大輔
	桐生市総合政策部人口対策室主事	馬場 秀穂

【傍聴者】 なし
【報道機関】 1 社

4. 議 題

【委嘱状交付式】

- 1 開会
- 2 委嘱状交付
- 3 市長挨拶
- 4 閉会

【推進委員会】

- 1 開会
- 2 挨拶
- 3 自己紹介
- 4 委員会設置要綱について
- 5 委員長及び副委員長の選出
- 6 議題
 - (1) これまでの経緯と本委員会の役割について
 - (2) 人口ビジョン・総合戦略について
 - (3) 今後のスケジュールについて
 - (4) 意見交換（自由討論）
- 7 その他
- 8 閉会

5. 議事の概要

(開始：午後 6 時 3 0 分)

【委嘱状交付式】

- 1 開会

〈和佐田企画課長〉

- 2 委嘱状交付

○市長より各委員へ委嘱状を交付

- 3 市長挨拶

〈亀山市長〉

委員の皆様にはお忙しい中、委嘱状交付式並びに第 1 回桐生市総合戦略推進委員会にご出席いただきありがたく思っている。また、委員を快くお引き受けいただき、感謝している。

県内 12 市の中で、桐生市の人口減少は際立っている。昨年の日本創生会議の発表では、20 歳から 39 歳の女性の人口が 2040 年には半数以下になる自治体は消滅する可能性があるという報告があり、残念ながら、桐生市はそこに入っている。

そこで、桐生市としてはこの問題にいち早く対応すべく、桐生市新生総合計画後期基本計画で人口減少対策を最重要課題と位置づけ、様々な分野に渡って平成 26 年度から本格的に取り組んでいるが、この問題解決は地方の取組だけではできない。国が動かなければならないということでもある。地方から日本を創生し人口減少を克服しようとする、まち・ひと・しごとに関連する国の動きがあり、これは桐生市がこれまで取り組んできたことと合致するものである。

本委員会では、桐生市版人口ビジョン、総合戦略を策定するにあたって、様々な分野で活躍されている皆様のご意見を拝聴し、皆様の機転を利かした議論を踏まえながら、桐生市の創生を目指していきたいと考えているので、是非、活発な議論をしていただくことを願います。

桐生の元気をつくるのには、何と言っても、若い人たちに住んでもらうこと、また、人口減少に歯止めを掛けて元気が出てくるようにしていかなければならないと思っている。ハードなスケジュールであると思うが、皆様方に力添えをお願いしたい。

4 閉会

〈和佐田企画課長〉

○市長退席

【推進委員会】

1 開会

〈和佐田企画課長〉

本日の出席委員数は過半数に達していることから、委員会が成立していることを報告する。

2 挨拶

〈鳥井総合政策部長〉

委員の皆様にはお忙しい中、ご出席いただき、ありがとうございます。

人口減少問題は、今だけの短期的な問題ではなく、子供の代・孫の代まで大きく影響を及ぼす社会現象である。人口減少の克服、地方創生を目指した取組として、地域の現状と将来展望を示した人口ビジョン並びに、人口ビジョンを踏まえ具体的な施策の指針となる総合戦略の策定・推進は、桐生市の将来にとっても重要な事項の 1 つと考えている。

本委員会は、年度内に 4～5 回の開催を予定している。委員の皆様方には、桐生市の地域特性を踏まえた中で、将来を見据えて忌憚のない意見等を賜りたい。

なお、本日は初回の会合であり、共通認識を持っていただく必要があることから、事務局からの説明に多くの時間を割くことをご理解いただきたい。また、今回、市長は途中で退席させていただいたが、今後、可能な限り同席させていただき、皆様方の意見をお聞きしたいと話していることを申し伝えさせていただく。

3 自己紹介

- 委員名簿の順に、各委員より自己紹介を行う。
- 委員紹介の後、事務局の自己紹介を行う。

4 委員会設置要綱について

〈事務局説明〉

事務局より、資料2「桐生市総合戦略推進委員会設置要綱」について説明。

5 委員長及び副委員長の選出

委員長の選出については事務局一任の声があり、宝田恭之委員が推薦され委員の賛同を得るとともに、副委員長については、宝田委員長が山口正夫委員を指名した。

6 議事

宝田委員長が議長となり議事を進行。

〈委員長挨拶〉

人口減少は様々な要因が複雑に絡み合っているものである。その原因は地域によって異なるものであり一般解はなく、対策が立てにくいものである。したがって、桐生は桐生独自の人口減少にどのような対策をとるか検討する必要がある。

未来創生塾を開催しており、その中で桐生市を検証してみると、決して人口減少に陥る自治体ではない。もっと地域コミュニティを活用することと、様々な地域の資源が、歯車が合っていないと考え、その歯車を合わせることが推進委員会の役割だと思っている。人口減少の克服だけではなく、地域の活性化を合わせて元気が出るようにすることが重要である。

皆様方の知恵を拝借して桐生独自の案を策定していきたい。

〈副委員長挨拶〉

商工会議所は全国で地方創生に関わっている。桐生を是非良いまちにしていきたいと思っている。この5年が勝負だと言われているが、残念なことに国の予算は1,000億円と当初予定より低く抑えられている。予算に関係なく、桐生らしい良いまちにしていきたい。

(1) これまでの経緯と本委員会の役割について

〈事務局説明〉

事務局より、資料3「これまでの経緯と桐生市総合戦略推進委員会の役割について」説明。

〈委員〉

人口対策室の設置は平成25年になってからである。桐生市の人口減少は昭和50年代から既に始まっており、現在の人口減少は誰もが予測できたはずなのに、今まで人口対策室が設置されなかったのはなぜか。

〈事務局〉

国でも若い世代が減少していることから、将来の人口減少の推計が出されていた。これまで設置さ

れなかった理由ははっきりしないが、桐生市は周辺市町村に比べていち早く設置して、対応していかなければならないとの考えがあった。「なぜこれまで設置されなかったか」の回答は、担当からは控えさせていただきたい。

〈委員〉

今後、人口減少の対策が遅れることがないように先手で対応していただきたい。

〈委員長〉

平成 26 年に事業を決定したとあるが、対策事業についての具体的な説明があるのか。

〈事務局〉

今回の推進委員会での説明は予定していないが、例えば、「住宅取得応援事業」では市内に住宅を取得された方に最大 200 万円を補助することや、「第 3 子以降保育料無料化事業」では年収に関係なく保育料を無料にするなどを行っている。資料を準備していないので、詳しい説明は割愛させていただきたい。

(2) 人口ビジョン・総合戦略について

〈事務局説明〉

事務局より、資料 4「(仮称) 桐生市人口ビジョン(原案の骨子)」、資料 5「(仮称) 桐生市まち・ひと・しごと創生総合戦略(素案)」、資料 6「桐生版「人口ビジョン」・「総合戦略」に関する意見提出様式」について説明。

〈委員〉

会場の構造上、音響がハモってしまい説明が聞きづらい。説明にはマイクなどを使用してほしい。

〈事務局〉

次回は会場が代わる予定である。今後は、マイクを使うなど配慮していく。

〈委員〉

現況分析など、図・表を使って分かりやすく資料 3、4 を説明していただいた。

資料 5 の目標は総花的に思える。国がやろうとすることを市で全部受けていく必要はなく、桐生の得意技は何かを考え、そこだけ集中していてもよいと思う。基本目標をもう少し変えていく必要がある。

〈委員〉

これまでも人口減少対策は行っていると思う。特に効果的だった事業があれば教えてほしい。

〈事務局〉

平成 26 年度から本格的に人口対策事業として始めたばかりであり、1 年間での効果はなんとも言えないところであるが、教育分野であれば全中学生に向けた「サイエンスドクター事業」の実施や、「住宅取得応援事業」では 170 件の申請があり、述べ 500 人以上の移住・定住を促進している。一定の効果はあったと考えている。

〈委員〉

もう少し早くから始めておけば良かったと思う。

〈委員〉

桐生市が抱えている問題として、産業の動向に対して地理的にスペースがないという特性が欠けている。産業、企業の誘致に対して、どのような手を打ってきたのか。

〈事務局〉

過去のことについて反省もある。住環境の整備を優先して進め、工場との混在を避けてきたと存じ上げている。今後は、環境や企業立地についてもいち早く動いていきたい。

新里地域にはまとまった土地もあり、今後 5 年の間に工業適地を用意できるようになった。また、これからは市内の企業が流出することがないように、また、新たな企業を市内に呼べるように、施策を進めていきたい。

このような視点で総合戦略の中でも、具体的な施策を盛り込んでいくことが重要だと思う。

〈委員〉

人口対策が先にありきの話が多かったと思うが、人口は色々な施策の結果だと捉えており、人口を増やすことだけの議論ではないと思う。桐生らしさ、桐生の持っている良さを生かしていけるかが大切であると思う。森林資源や水も豊かであり、桐生の良さをこの委員会で再発見していきたい。

〈委員〉

私は、東京の会社で働いていたが、昨年 U ターンで桐生に帰ってきた。その時に、自分の収入が稼げるのかどうか不安があったことを思い出した。若者のことを考えると、仕事の数があるかどうかもあるが、一番は自分の収入が減るのかどうか、稼げるのかどうかだろう。東京で稼いでいた収入 30 万が地方で 18 万になる生活が想像できないと思う。収入のほかのことで、生活が豊かになってどう変わっていくのか想像できない。家賃、食費などの負担が少ないことをもっと伝えていくと、収入に対する不安は軽減され、選択肢にも入ってくると思う。やりがいのある仕事があり、それが伸びていくものなのかどうか、若者はシビアにみている。

桐生の素晴らしいところは教育環境で、学校も多く学生の街だと思う。国ではスーパーグローバルハイスクールなどで留学など外に出すことを促進しているが、子どもたちを地元にとどめていき、ローカルなところから子どもたちの将来に、また、地域の未来に繋がることを考えていきたい。

女性にとって、教育環境の整っている地域は選ばれる地域である。桐生を住む場所を選んでもらうために、教育環境の情報を発信していくことが重要であると思う。

〈委員〉

他の自治体もできることをやっても仕方ない。他ではできないことは何かを考えていきたい。桐生市にあるものを活かしていくことが重要である。無いものを目指しても仕方ない。

(3) 今後のスケジュールについて

〈事務局説明〉

事務局より資料 7 「(仮称) 桐生市「人口ビジョン」・「まち・ひと・しごと創生総合戦略」策定ス

ケジュール」について説明。

〈委員〉

会議などの日にちの設定は、早く決めてほしい。

〈事務局〉

会議の日程が直前の連絡にならないよう、できるだけ早く調整させていただき、お知らせしたい。

〈委員〉

第2回推進委員会で行うこととなる総合戦略の原案は、人口対策室が作成するのか。

〈事務局〉

同時並行で策定準備委員会において原案の作成を進めている。

また、配布している意見提出様式で推進委員会の委員の意見を伺うなど、意見を反映させて、一旦、事務局でまとめさせていただく。さらに、それを推進委員会で協議いただくこととなる。

〈委員〉

この原案は、何を基にして作成されるのか。意見提出様式による意見提出は9月18日までとなっており、これで委員の意見を反映させるのには日程に無理があるのではないか。

〈事務局〉

原案の前の案を示した上で市民の意見を伺い、9月18日までの推進委員の意見、提案を踏まえて、頂いた意見をまとめていき、原案の案を作成していきたいと事務局では考えている。さらに最終的にもう一度パブリックコメント等によって意見を伺っていくこととなる。

〈委員〉

ようは、国が示しているものだけを基にして作成するのでは、桐生市ならではのものにはならないことを懸念している。

〈事務局〉

今回は、パブリックコメントにかける原案の前の案で、これを示した上で、まず市民の意見や用意した様式で委員の意見を伺い、それを踏まえた上で、原案を作成していきたい。それをすべてまとめていき、最終的にもう一度、推進委員会で協議していただく予定である。一旦まとめ上げる原案についても、皆さんの意見を踏まえた上で、まとめていくことを考えている。

〈委員〉

従来の審議会では原案を承認する機関になってしまいがちである。今回の総合戦略で重要なのは、市がつくる原案に“こだわり”があってはいけないということで、本委員会のメンバーの意見を計画にしっかり入れたものにしていきたい。

〈委員〉

今の件は、第4回策定準備委員会にある「パブリックコメント等」になるのか。

〈事務局〉

「パブリックコメント等」には、9月18日までに提出していただく意見を反映させるということを含んでいることをご理解いただきたい。

〈委員長〉

委員会の意見がどのように反映されていくのか、というのは皆さん心配しているので、気を付けていただきたい。

原案は10月14日の庁議で決定されるのか。総合戦略策定準備委員会の4回の開催で決められるものなのか。庁議の位置づけがよく理解できない。

〈事務局〉

庁議は市の最高決定機関であり、市内部での原案を決定するのに必要となる内部の手続きの流れである。原案の決定で、最終案の決定ではない。

〈委員長〉

庁議で決定されたものを、庁議のあとの第2回推進委員会で叩いて、ひっくり返してもよいのか。

〈事務局〉

言葉の使い方が分かりづらく申し訳ないと思う。庁議ではあくまでも基となる原案を決定するものである。市民の意見も反映させた上で市の原案を作成し、推進委員会に諮ることとなるので、推進委員会で原案を直すことはいくらかでも可能である。

〈委員〉

9月15日の議会報告では、本日説明があった考え方を議員に示し、意見を聴取するのか。

〈事務局〉

そのとおりである。市民から、議会から、推進委員会から、3者の意見を聞いて原案を作成する。

(4) 意見交換（自由討論）

〈委員長〉

思いつきでも構わないので、ご意見をいただきたい。

〈委員〉

海外からの外資を活用することで、1億2千万となった。国では1億人の人口を確保と言っている。国自体がGDPを伸ばしていくことを前提とした指標で考えているが、例えば明治時代には外国から資源を大量に持ってくることで、数字が達成されている。省エネやコンパクトにしていく考えとして、今後の日本のコストを考えた時に、「逆に人口が減ったほうが良いのでは」ということも考えられ、物差しを変えることで、幸福感を上げることもある。「若者がショッピングモールがない」と言われるが、ショッピングモールが良いという人はショッピングモールがある所に住めばいいし、このような人の入れ替わりということも考えていかないと、そこに住んでいる人が幸せだと感じられるまちが作れないのではないかと思います。

〈委員長〉

ここに住んで良かったというまちづくりビジョンを目指せばよいのではないかと。良ければ住んでいく人が増える。桐生は食文化が良く、住んでいてお得感がある。桐生の良い財産は沢山あり、未来創生塾では参加するお母さん、子どもが毎回感想を述べ合っているが、その情報が行き渡っていかない

という意見が殆どである。どうしてこうなったのか、桐生の財産を使ってどうしていかなければならないのかを落とし込んでいかなければならない。

皆さまの意見を踏まえ桐生独自の良いところを活かしていくという観点から案を完成させていただきたい。そうしないと総合戦略を国に持って行った時にはオリジナリティが必要となるので、跳ねられる可能性もある。今回の総合戦略は地方創生のラストチャンスだと思って覚悟を決めていただくとともに、推進委員会としても責任を感じるような意気込みで進めていきたい。

〈委員〉

桐生市環境都市推進構想を3月に制定しており、将来のまちの将来構想を描く上で、大事な柱になると思う。これをどのように実現させていくのかを考えている。

〈委員長〉

他に意見がなければ、提出シートに記入し、9月18日までに提出いただきたい。

〈事務局〉

意見を反映させるのはこれで最後ではない。原案から最終案にさせていくまで、本推進委員会での意見を中心にいただきながら進めていくことになる。

7 その他

〈事務局〉

○謝金の支払いについて説明。

○次回（第2回）推進委員会の開催日程について調整。その結果、10月20日（火）18:30での開催に決定。

8 閉会

〈和佐田企画課長〉

（終了：午後9時5分）